

安野太郎 ゾンビ音楽
 「『大霊廟Ⅲ』—サークル・オブ・ライフ—」
 KAC Performing Arts Program 2021/Music #3



＼京都にゾンビ発生中／
 ヴェネチア・ビエンナーレ出展作家、安野太郎
 5年ぶりの新作「大ゾンビ音楽」公演！！

競い合いながらも連鎖していく音楽家たちの人生を彩るのは、
 4メートルの巨大演奏装置と「ゾンビ」たち？！

■開催概要

公演タイトル：「『大霊廟Ⅲ』—サークル・オブ・ライフ—」

上演日時： 3月26日（土）19時開演
 3月27日（日）14時開演

会場： 京都芸術センター 講堂

チケット料金：一般発売 3,000円/当日3,500円

U25 2,500円（前売り・当日共） *未就学児入場不可、全席自由

主催： 京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）

助成： 芸術文化振興基金助成事業

■公演クレジット

作曲：安野太郎、出演：今井貴子／清水慶彦／安野太郎／和田悠花、プロジェクトコーディネーター：小野寺啓、舞台監督：渡部景介、照明：十河陽平（株式会社RYU）、宣伝美術：松見拓也、協力：アンケートとインタビューに答えてくれたみなさん

本公演に関するお問い合わせ先
 京都芸術センター事業担当：瀬藤、谷、吉峰

〒604-8156

京都市中京区室町通錦薬師下る山伏山町546-2
 546-2 Tel. 075-213-1000 / Fax. 075-213-1004
 / Email. setou@kac.or.jp / Web. https://www.kac.or.jp/

※プレスリリースに掲載されている画像の使用をご希望の際は、お問い合わせください。

■公演について

そもそも「ゾンビ音楽」とは？

安野太郎が2012年から継続する音楽のプロジェクト。ゾンビと呼ばれる自作のロボットが笛を自動演奏します。演奏する為の運指をnビット（リコーダーの場合は8ビット）の数列に見立てており、そのnビットの数列を操作し構成することで、楽曲が作曲されます。「ゾンビ音楽」の作曲、演奏に関する理屈は、人間の美学に基づいておらず、結果として表現されるものは人間側からみたら奇妙な音や音楽に聴こえます。その奇妙さを人間の視点から捉えた言葉として「ゾンビ」という言葉が当てはめられています。また「ゾンビ」は生命無しで身体だけが動いているというロボット／機械の隠喩ともなっています。

2015年のF/T15参加をきっかけに、W2m×D2m×H4mの大ふいご装置によるゾンビ音楽を実現しました。以降、この装置によるゾンビ音楽を「大ゾンビ音楽」と呼んでいます。本公演は、大ゾンビ音楽による公演シリーズである『大霊廟』の最新作です。

これまでに「ゾンビ音楽」による2枚のアルバム（「DUET OF THE LIVINGDEAD」「QUARTET OF THE LIVINGDEAD」）を、pboxxレーベルよりリリース。2017年、大ゾンビ音楽による公演『大霊廟』で、清流の国ぎふ芸術祭 Art Award In the Cube 2017 審査員賞（高橋源一郎）。第7回JFC作曲賞（日本作曲家協議会、2013年）、TEF vol.8 奨励賞（2013年）など多数受賞しています。

「音楽家のエコシステム」を「ゾンビ」たちが彩る。

『『大霊廟Ⅲ』—サークル・オブ・ライファー—』は、音楽家のエコシステムをテーマにしています。一口に音楽家といっても、活動形態、目的、受けてきた教育や影響により、その在り方は様々に異なります。音楽に関わる人々が影響し合い、競い合い、時には挫折しながらも活動することで形作られる音楽界は、自然界の生物や植物が形成する生態系さながら多様性と流動性に富んでいます。

音楽家による独自の「エコシステム」は一方で社会とは断絶されず、経済の一部としての音楽活動、あるいは音楽活動を続けるための労働を通じて生じる問題とも重なり合っています。本公演は、2020年の開催に向けて構想され始めましたが、コロナ禍の影響を受けて延期し、2年越しの開催となりました。その間安野自身に生じた、音楽家としての労働環境や社会的立場の変化は、作品を形作る大きな要素となっています。

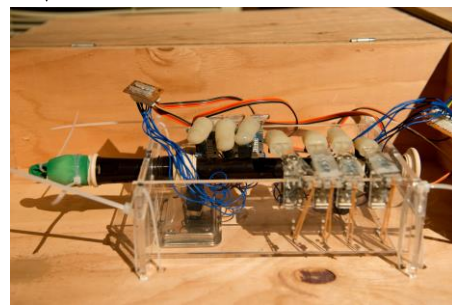
音楽家の人生を彩る音楽を奏でるのは、ゾンビオペラ『死の舞踏』（フェスティバルトーキョー15, 2015）で初登場した高さ4メートルの檣による巨大なふいごを備えた装置です。人間がふいごを踏み続けることで稼働するこの演奏装置は、人間とテクノロジーの不均衡な関係や、音楽家に付きまとう労働や金銭の問題を想起させるでしょう。

今回の大ゾンビ音楽の肝は、音楽家へ向けて実施したリサーチ。

音楽家のエコシステムの実情を知るため、安野らは音楽に関わる価値づけ、労働、社会生活の実態について、多様な立場にある音楽家に向けたリサーチを実施しました。そこでは、広範囲に向けて実施したアンケート調査をもとに、回答した方のうち数名にインタビュー取材を行いました。そしてリサーチ活動を通じて安野は思索を深めた上、3名の音楽家を「ゾンビ音楽」へ巻き込むに至りました。今回の公演は、これらの取材成果と新旧のゾンビ音楽とを織り交ぜて構成されます。「ゾンビ」たちによる非人間的美学に基づく音楽と、人間の悲喜交々を一度に味わう時間をどうぞお楽しみください。



▲「ゾンビ音楽」の演奏装置。「大ゾンビ音楽」以前の初期のタイプ。エアコンプレッサーを用いて、空気をコントロールすることでリコーダーを演奏する。



「ゾンビ音楽」を演奏する安野太郎。

上掲写真クレジット：KAC Performing Arts Program 2014/ Music 若手作曲家シリーズ2 安野太郎 新作ゾンビ音楽『死の舞踏』（於：京都芸術センター、撮影：井上嘉和）



「大ゾンビ音楽」の演奏装置。（THE MAUSOLEUM I『大霊廟Ⅰ』）、2017。「ぎふ清流の国芸術祭 Art Award In the Cube 2017」岐阜県美術館、撮影：池田泰教



「大ゾンビ音楽」の演奏装置。4人のパフォーマーがふいごを踏む様子。

ゾンビ音楽『『大霊廟Ⅱ』デッドパフォーマンス』2017、BankART studio NYK、横浜、撮影：後藤悠也

実施したアンケートはこちらからご覧いただけます。

URL：

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeX1NRpVB6HxoQjMysK2Qzqzmt4YYqq2C9to2ypkTKDTIf99A/viewform>



■出演者プロフィール



写真：井村重人

今井 貴子

フルート奏者。東京音楽大学付属高等学校を経て、桐朋学園大学卒業。2005年より渡仏。オルネイ・スー・ボワ音楽院にて世界的フルート奏者のパトリック・ガロワの元で鍛錬を積む。2011年同音楽院最終課程を一等賞を得て修了。同年、ディジョン国立地方音楽院の最終課程を一等賞を得て修了。フルートを折原美佐子、植村泰一、故・野口龍、ジャン・フェランデイス、パトリック・ガロワの各氏、室内楽を白尾彰、中井恒仁、ジュリアン・ゲヌポーの各氏に師事する。オーケストラの客演、また室内楽奏者として、長きに渡り欧州で活動を行う。2022年より拠点を日本に移す。バロックから現代作品まで、意欲的なプログラムと色彩豊かなパフォーマンスが好評を得ている。



和田 悠花

声楽家。大阪府立夕陽丘高校音楽科を経て、京都市立芸術大学卒業、同大学院修了。卒業時に音楽学部賞、京都音楽協会賞を、修了時に大学院賞を授賞。新国立劇場オペラ研修所21期修了。平成26年度青山財団奨学生。京都市文化芸術きらめき賞授賞。第65回、第67回全日本学生音楽コンクール大阪大会入選。なにわ芸術祭新人賞。第1回豊中音楽コンクール第2位、市民聴衆賞。第30回宝塚ベガコンクール第4位。第6回江戸川区新進演奏家コンクール審査員長奨励賞。第90回日本音楽コンクール声楽部門第2位。第57回日伊声楽コンクール入選。フォーレ「レクイエム」や、ベートーヴェン「第九」にソリストとして出演。現在、小濱妙美氏に師事。



清水 慶彦

作曲家。京都芸大（京都市立芸術大学）で松本日之春、前田守一、中村典子らに師事し学部賞を得て卒業、同大学院博士課程修了。交換留学制度によりプレーメン芸術大学で研鑽を積んだ。作品集CD『清水慶彦作品集 六相円融』が『レコード芸術』誌で推薦盤に選定されたほか、アンサンブル・リュネットCD『エイト・レンゼス』、永野伶実CD『笛吹き女』等に楽曲提供。作品はニューヨークで開催された音楽祭「ミュージック・フロム・ジャパン2018」等で上演されている。近作に笙とクラリネットのための《鶴の聲》、バロックフルートとスピネットのための《大枝山酒呑童子絵詞》など「怪異と音楽」を題材に創作を展開。京都妖怪音楽協会代表。大分大学教育学部准教授。

■安野太郎プロフィール



作曲家。1979年生まれ。日本人の父とブラジル人の母を持つ。いわゆるDTMやエレクトロサウンドとしてのコンピューター・ミュージックとは異なる軸で、テクノロジーと向き合う音楽を作っている。

代表作に『音楽映画』シリーズ、『サーチエンジン』、自作自動演奏機械の演奏による『ゾンビ音楽』シリーズ。近年の活動に「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」参加(2021)、個展「安野太郎:アンリアライズド・コンポジション『アイコン2020-2025』」(アートフロントギャラリー, 2020)、『Cosmo-Eggs|宇宙の卵』(第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館代表作家チームとして, 2019)等。東京音楽大学作曲科卒業。情報科学芸術大学院大学(IAMAS)修了。2022年現在、愛知県立芸術大学准教授。

KAC Performing Arts Program / Music とは

京都芸術センターが主催する音楽事業。センターの講堂や教室など小学校の面影を残す独特な空間を効果的に使い、音楽ホールよりも身近で濃密な音楽体験の場をつくり出すことを目指してきました。毎年若手音楽家に焦点をあて、音楽家との対話や他分野のアーティストとの協働を通じ、先鋭的なプログラムを展開しています。